



受験サプリ

学校改革の鍵は、“D&Aの融合” 「受験サプリ」+αで生徒の意欲・学力を高める

— 岡山・私立 岡山龍谷高校 —

取材・文／丸山佳子



左から
専務理事
中村好孝先生
進路課長
依田 新先生
事務長
小寺伸司先生

School Data

創立1923年(大正12)年／普通科・情報科
生徒数648人(男285、女363 / 2013年9月現在)
進路状況(2012年度)大学・短大進学44.0%
専各進学41.0%・就職12.0%・その他3.0%
岡山県岡山市笠岡874
TEL 0865-63-2525
URL <http://www.ok-ryukoku.ed.jp>

デジタル アナログ

「D&Aの融合」による 「受験サプリ」のさまざまな活用

●iPad20台装備の「Rアカデミア室」を新設

「ワクワクする空間があると気分が変わり集中できると、生徒からも好評です」と小寺先生。温かみのある自習室は、「D&Aの融合」の象徴。



●教師の二重解説で生徒の理解力を深める

「受験サプリ」の講義やセンター試験問題、大学別の過去問をホワイトボードに映し、教師が二重解説。解説する教師も勉強になるという。



●「受験サプリ」の学校検索を使って 進路指導

生徒の利用率が高い「受験サプリ」ならではの学校検索。iPad導入で場所を選ばず面談できるため、相談にくる生徒が増えたという。



●能率手帳で自己管理能力UP

自己管理能力育成のための能率手帳。予習、復習、自習、受験サプリなど、勉強内容と時間を色分けして書き込むことで、自分の勉強の偏りを見直せるという。



「受験サプリ」活用中の特別進学コース2、3年生。「留学していたので、1年の復習やTOEIC®対策に英語の講義を活用しています」(前列右・渡辺あやさん・2年生)



●「受験サプリ」でボランティア

50時間視聴すると、世界の子どもたちに、ワクチン50本を贈れる「55プロジェクト」を9月から開始。写真提供／JCV(禁無断転載)



生徒のモチベーションアップには 心を動かすアナログ要素が必要

「志願者の増加は、学力だけでなく、社会に貢献できる人材育成を目指し、心の教育に重点を置いてきたことが大きな要因です。私たち教師も中学校での講演などには協力を惜しみません。それが、保護者の共感につながっていると思います」と専

務理事の中村好孝先生。今後の学校改革でも心の教育は重点項目。D(デジタル)&A(アナログ)の融合が鍵だと語る。

岡山龍谷高校は、今年で創立90周年。仏教精神に基づく女学校として創設され、1997年に共学化。2007年の校名変更で生まれ変わった。従来の普通科・情報科・生活科を、難関大学合格を目指す少人数制の「普通科・特別進学コース」と看護・福祉・クリエイティブ系などを目指す「普通科・進路教養コース」、情報科」に変更。また、08年からはユネスコスクールに加盟し、平和・人権・環境を大切にす

人格教育や国際理解教育にも力を注いできた。こうした改革により、この6年で志願者数が3倍強に増えている(06年度580人↓12年度1800人)。

「R(龍谷)アカデミア室」では、iPadの画面から「受験サプリ」の画像をプロジェクトに取り込み、ホワイトボードに映し出して授業や補習も行っている。

「この機能があることで、講義の重要な箇所は画像を止めて教師による二重解説が行えます。センター試験の長文読解などは、ホワイトボードに映した問題に注釈を書き込むことで生徒の理解を深められ

そうした考え方を象徴するのが、「受験サプリ」の視聴時間に応じて世界の子どもたちにポリオ、はしか、結核などのワクチンを贈り、命を救うことができるボランティア活動である。これは、同校が認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会」のサポーターとなつて行う全国の高校で初の取り組み。「社会に貢献できる人材を育成するためには、自分が勉強したことが人の役に立っていると実感できることが大切です」と中村先生。「受験サプリ」+αの活用方法は、まだまだ増えていきそうである。

勉強したことが人の役に立つ。 その実感が将来の糧になる

進路課長の依田新先生は言う。